

オンライン
開催

日本教育学会 若手育成委員会 主催イベント

若手研究者の多様な キャリアを考える交流会



企画趣旨

若手研究者にとって、今後のキャリアプランはブラックボックスともいえる。将来について、不安を抱くこともあるだろう。一方で、その実際に目を向ければ、研究者としてのキャリアの歩み方は多様であり、そこには多くの選択肢が広がっている。

本企画は、若手～中堅の研究者に話題提供をいただき、これまでの歩みやキャリアにおけるターニングポイントについてお話しいただく。それを踏まえ、参加者のみなさまと交流を図り、今後の充実したキャリアを構想・形成するための機会としたい。

話題提供者

① 下村 一彦 先生 (東北文教大学・准教授)

テーマ: 地方私大就職の経験から

保育者養成と研究、NPO活動に取り組んでいます。就職(科目担当)に求められる研究分野の拡張での苦悩や失敗、他方、魅力的な教育者や異分野研究者との出会いによる研究の深化等、地方私大就職を検討する方の参考になればと思います。

② 瀧本 知加 先生 (京都府立大学・准教授)

テーマ: 女性研究者として

専門は青年期教育・職業教育学です。進路多様校出身で学振なし、働きながらの博士課程を経て、大学教員になりました。博士号取得、奨学金の返済、キャリアと結婚・出産、学会での人間関係等についてお話できればと思います。

③ 武井 哲郎 先生 (立命館大学・准教授)

テーマ: 就職と研究の両立可能性

専門は教育制度学です。びわこ成蹊スポーツ大学を経て2016年より立命館大学に勤務しています。当日は就職と研究の両立可能性について話題提供できればと考えております。

④ 原田 大介 先生 (関西学院大学・教授)

テーマ: 保育・学校現場での経験を活かして

院生のときや院生修了後に臨時的任用教員や非常勤講師といったかたちで保育・学校現場に出ることが、自身の研究や生活を充実させることにも結果的に大学での就職にもつながるということをお話しさせていただきます。

⑤ タスタンベコワ クアニシ 先生 (筑波大学・准教授)

テーマ: 日本の大学で生き延びる

ー留学生・外国人教員・女性としてー
カザフスタン共和国出身で、比較・国際教育学が専門です。筑波大学留学後、母国教育科学省情報分析センター等の非常勤を経て2013年に筑波大学に就職しました。留学生や若い研究者が抱える不安への一つの参考になったら嬉しく思います。

2023年
2月5日(日)

13:00~15:30 [Zoom]

[スケジュール]

13:00~13:10

開会挨拶・趣旨説明

13:10~14:00

登壇者による話題提供

(①~⑤の順番に各10分)

14:00~14:10

話題提供に対する質疑応答

14:15~15:25

ブレイクアウトセッションI/II

15:25~15:30

閉会挨拶



URLまたはQRコードよりお申し込みください。(2月4日土曜メ切)

<https://docs.google.com/forms/d/1ztSurCisGvmfrX5xDuqxz-bXnjrE0LSVYRtYpnuUbuI/edit>

- ・参加費は無料です。
- ・学会員/非学会員を問いません。
- ・ZoomのURLは、ご登録いただいた後に、随時送付致します。

問い合わせ先: 若手育成委員会 wakate@jera.jp